

平成30年度

全国学力・学習状況調査結果の概要について

山梨県教育委員会

1 調査の本県の概要

○実施日 平成30年4月17日（火）

○目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査内容

- ・教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科（3年に一度）から出題。
- ・国語、算数・数学については、主として「知識」に関する問題：A問題（身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容など）と、主として「活用」に関する問題：B問題（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）を出題。理科は、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関わる問題を一体的に出題。
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施。
- ・中学校英語予備調査を、県内では抽出校2校で実施。（平成31年度本調査で実施予定）

○対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒

○県内(公立学校)の実施状況

	公立小学校	特別支援学校 小学部	公立中学校	特別支援学校 中学部	合 計
学校数 (分校含む)	169校	2校	81校	3校	255校
児童生徒数	6,612人		6,705人		13,317人

2 全体についてのコメント

①全体的に見て、昨年度よりも改善している。

- ・ 全国平均と同等もしくは上回る教科領域が増えてきた。
- ・ 全国平均を下回る教科領域についても、その差は縮まっている。

平成30年度本県の調査結果(公立) 【悉皆】

	小学校調査					中学校調査				
	国語		算数		理科	国語		数学		理科
	A	B	A	B	AB	A	B	A	B	AB
平均正答数(本県)	8.5 /12	4.3 /8	8.7 /14	5.0 /10	9.6 /16	24.4 /32	5.6 /9	23.6 /36	6.7 /14	18.2 /27
平均正答数(全国)	8.5 /12	4.4 /8	8.9 /14	5.1 /10	9.6 /16	24.3 /32	5.5 /9	23.8 /36	6.6 /14	17.9 /27
全国平均正答数との比較	—	★	★	★	—	☆	☆	★	☆	☆
平均正答率(本県)	71	54	62	50	60	76	62	66	48	67
平均正答率(全国)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

平成29年度本県の調査結果(公立) 【悉皆】

平均正答数(本県)	11.1/15	5.1/9	11.5/15	4.7/11	25.1/32	6.6/9	22.9/36	7.3/15
平均正答数(全国)	11.2/15	5.2/9	11.8/15	5.1/11	24.8/32	6.5/9	23.3/36	7.2/15
全国平均正答数との比較	★	★	★	★	☆	☆	★	☆

※全国平均正答数を上回っている(☆)、同値(—)、下回っている(★)

②経年的に見て、改善の傾向が読み取れる。

- ・ 平成25年度には全国平均から－11.3ポイントの差があったが、年々その差を縮め、本年度は－1.7ポイントまで近づいてきた。(平成25年度からは9.6ポイント、平成29年度からは1.4ポイント平均との差を縮めた。)(図1)
- ・ 理科を含めるとその差はさらに縮まる。(－1.1)(図2)

図1 本県平均正答率と全国平均正答率との差の合計の推移(理科を除く)

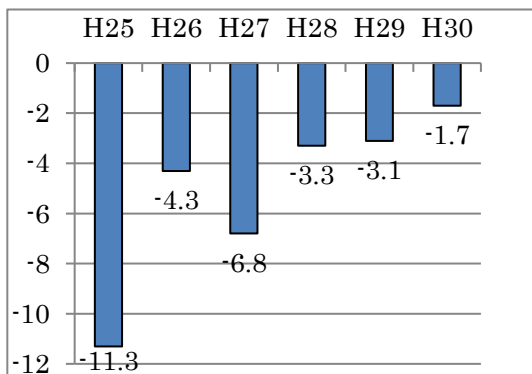
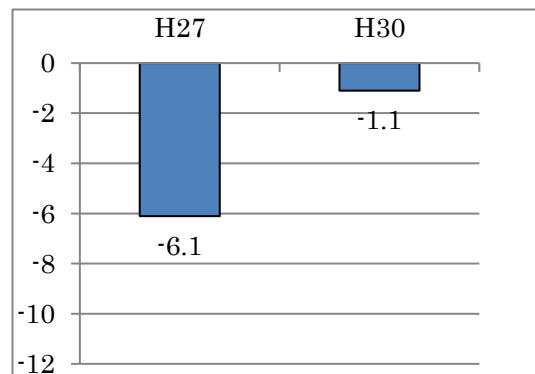
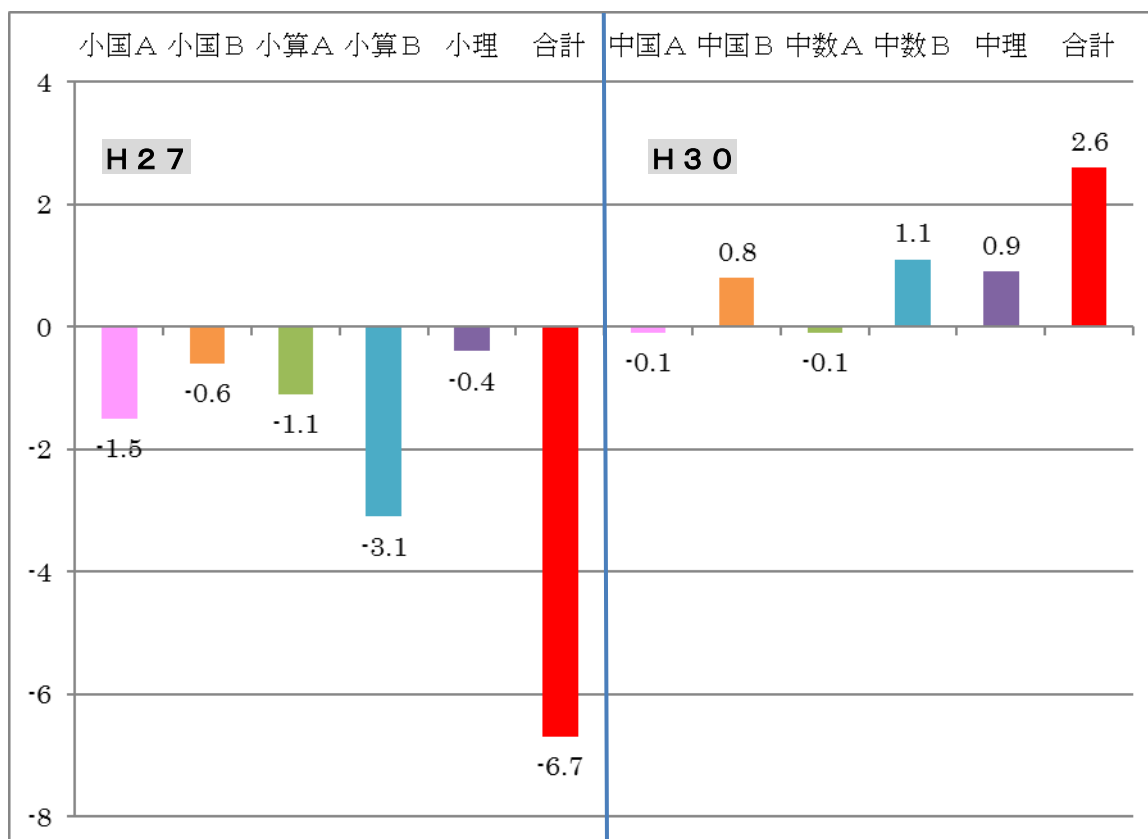


図2 本県平均正答率と全国平均正答率との差の合計の推移(理科を含む)



- ③同一生徒（中学3年生が小学校6年時）の比較では、9.3ポイント上昇している。（小学校6年時－6.7から、本年度＋2.6に全国平均を上回るまで、伸びを示している。）（図3）
- ・昨年度の上昇ポイントよりも、更に向上した。（昨年度8.7ポイント、本年度9.3ポイント）

図3 小学校6年（H27）と中学校3年（H30）における全国平均正答率との差



- ④質問紙調査においては、昨年度までと同様に、生活習慣や学習環境に関する項目について、全国平均を大幅に上回っている。

＜児童生徒質問紙＞

- ・学習に関する項目の95%以上において、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回っている。
- ・「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」「学校の決まりを守る」など、学力との相関が見られる項目については、肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国トップクラスである。

＜学校質問紙＞

- ・小学校中学校とも、100%の肯定的な回答を示している項目がある。これは、全県的な取組が浸透している成果である。

※100%を示している項目

- ・校内研修計画を整備し、組織的・継続的に研修を行っている。
- ・研修会の成果を、積極的に教育活動に反映させている。

3. これまでの取組

1 学力向上総合対策事業の推進

授業改善

○学力向上推進事業

(学力向上対策会議、学力向上キャラバン、学力向上フォーラム)

- ・学力向上対策会議を開催し、アドバイザーによる指導助言に基づく授業改善等の研究を行う。
- ・県教育委員会指導主事が、市町村教育委員会の要請に応じて小・中学校を訪問する。学びに向かう力の育成の支援となるよう、学力向上に資する集会活動等に参加し、講話や相談会を実施する。
- ・学力向上フォーラムを開催し、実践事例や講義等を基に全県的な視野で授業改善について考える。

○学びのサイクル改善事業

- ・小5～6年児童に対し、思考力・記述力が求められる問題を実施し、達成度を踏まえて効果的な対策を明らかにして授業改善を行う。

○主体的・対話的で深い学び推進事業

- ・新学習指導要領全面実施に向けた主体的な研究実践を行う市町村（学校）へ支援を行う。

○学力向上支援スタッフ配置事業

- ・学習支援を行うスタッフを配置する市町村への助成制度を設け、教員の担うべき業務に専念できる環境を整え、児童生徒の学力向上を図る。

○中学生英語力向上サポート事業

- ・市町村等が実施する英語検定支援事業に対し助成及び英語教師の授業改善の指導を行い、中学生の英語力の水準や英語学習に対する意識・意欲の向上を図る。

○読解力・記述力向上推進事業

- ・新聞記事に関する読解、記述の設問から構成される「新聞ワークブック」を作成し、場面や状況に応じて適切に記述することができる言語能力の育成を図る。

○山梨県学力把握調査事業

- ・節目となる学年（小3，小5，中2）における児童生徒の学習の定着状況を把握し、各学校の課題に対応した取組を図る。

教員の資質向上

○授業力養成事業

- ・優れた授業方法を実践的に学ぶ「授業力養成講座」を実施する。

○ミドルリーダー研修事業

- ・中堅の教員を対象とした研修を導入し、系統的な研修体制を整える。

○若手教員グロウアップ事業

- ・教職経験3年以内の教員（期間採用を含む）の資質向上を図るため、退職教員（アドバンスティーチャー）を派遣し、学習指導や学級経営等に関する専門的かつ継続的な指導を行う。

家庭・地域との連携

○家庭学習習慣化促進事業

- ・家庭学習に取り組む際のポイントを掲載したクリアファイルを県下の児童に配付し、主体的に学ぶ態度の育成を図る。

2 やまなしスタンダードの推進

- ・「やまなしスタンダード～授業づくりの7つの視点」のもと、県全体で授業づくりの取組を進めている。（※1）

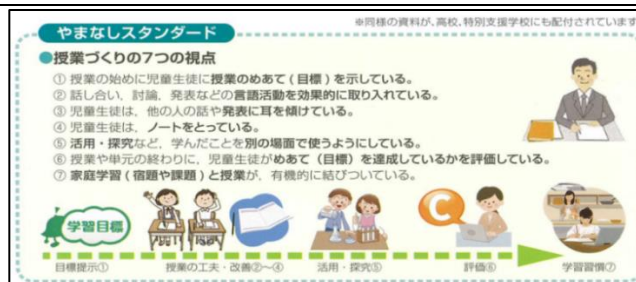
3 地域の実態に応じた取組の実施

- ・地域学力向上推進幹を中心に、各地域の特色や課題に焦点を当てた学力向上対策を進めている。

4 県教委による採点の実施と早期の結果分析

- ・小・中学校の答案を指導主事が採点し、結果の概要をまとめ、誤答を分析した。文部科学省に先駆けて、管理職研修会（6月5日，12日）および「学力調査を踏まえた授業改善のための説明会」（6月19日，21日）を実施し、結果の分析と県として取り組むべき課題を示した。

※1 やまなしスタンダード



4. 結果を踏まえた今後の取組

○教育監、地域学力向上推進幹、指導主事による学校訪問

- ・市町村，学校毎の状況を把握し，指導改善の取組の周知・徹底を図る。
- ・学校が作成した「一校一実践」（調査結果から明らかになった課題に対して全校で具体的な授業改善を行う）を基に，学校訪問で指導を行う。

○「学力向上フォーラム2018」の開催

- ・大学の教授を講師に招聘し，学習意欲を高めるための動機づけに関して教育心理学の視点からの講演や，課題点改善に焦点を当てた授業改善の具体的な例をテーマにしたトークセッションを通して，県内小・中学校の確かな学力の定着と向上を図る。

○「ピックアップ問題」の作成と配信

- ・県の学力把握調査や全国学力・学習状況調査の結果を受け，課題がある学習内容についてのピックアップ問題を作成し，確実な学力の定着を目指す。

1. 各教科の概要

以下の3つの視点から分析を行った。

- 正 平均正答率が高いまたは低い主な設問
- 差 全国の平均正答率と差が見られる主な設問
- 経 経年比較で成果や課題が見られる主な設問

小学校

教科	問題	よくできている設問 (○)		平均正答率 (%)		理由
		課題がある設問 (△)		山梨県	全国	
国語	A	○	慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する(心を打たれる) 6	91.3%	90.4%	正 正答率が高い。
		△	【春休みの出来事の一部】の中で、----部と—部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す 5	36.8%	35.5%	正 経 正答率が低く、経年的にも依然として課題が見られる。[H27A 2 一 県 52.1% 全国 53.1%]
	B	○	【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する 1 一	82.1%	82.5%	正 正答率がB問題の中で最も高い。
		△	【おすすめする文章】の に、むし菌を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く 2 二	12.8%	13.5%	正 経 正答率が低く、経年的にも依然として課題が見られる。 [H29B 2 三 県31.1% 全国33.0%]
算数	A	○	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ 1 (2)	71.7%	66.7%	差 経 全国平均を5.0ポイント上回っている。平成29年度調査においても、全国平均を3.5ポイント上回っている。 [H29A 1 (2) 県 73.4%, 全国 69.9%]
		△	円周率を求める式として正しいものを選ぶ 7 (1)	39.4%	41.6%	正 差 正答率が低く、全国平均を2.2ポイント下回っている。
	B	○	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ 1 (1)	73.8%	71.7%	差 全国平均を2.1ポイント上回っている。
		△	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く 3 (1)	19.9%	20.7%	正 正答率が低い。

理科	A	○	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ〔3〕(4)〕	45.0%	41.9%	差	全国平均を3.1ポイント上回っている。
	B	△	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く〔2〕(3)〕	18.3%	20.1%	正 差 経	正答率が低く、全国平均を1.8ポイント下回っている。経年的にも依然として課題が見られる。〔H27 3〕(6) 県26.7%、全国28.9%〕

中学校

教科	問題	よくできている設問(○) 課題がある設問(△)		平均正答率(%)		理由	
				山梨県	全国		
国語	A	○	段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する〔4〕二〕	81.9%	79.4%	差	全国平均を2.5ポイント上回っている。
		△	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く〔8〕四2〕	19.1%	22.3%	正 差 経	全国平均を3.2ポイント下回り、正答率が低い。経年的にも依然として課題が見られる。〔H27 小学校A 2〕一 県52.1% 全国53.1%〕
	B	○	二人に続いてする質問を書く〔2〕二〕	89.3%	88.3%	正	正答率が高い。
		△	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く〔1〕三〕	13.3%	13.3%	正 経	正答率が低い。経年的にも依然として課題が見られる。〔H26 B 2〕三 県30.1%、全国28.4%〕
数学	A	○	与えられた円柱の見取図から、その円柱の投影図を選ぶ〔5〕(3)〕	86.6%	83.7%	差 経	全国平均を2.9ポイント上回り、経年比較でも改善の傾向が見られる。〔H25 A 5〕(2) 県85.8%、全国85.0%〕
		△	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ〔1 2〕	33.1%	36.4%	正 差 経	正答率が低く、全国平均を3.3ポイント下回り、経年的にも依然として課題が見られる。〔H24 A 12〕 県33.2%、全国37.9%〕

理 科	B	○	グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める〔3〕(2)〕	82.6%	77.7%	正 差	正答率が高く、全国平均を4.9ポイント上回っている。
		△	通常料金を a としたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する〔5〕(2)〕	10.2%	10.4%	正	正答率が低い。
	A B	○	火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探究して実験ノートにまとめる場面において、探究の過程を振り返り、新たな疑問か、探究への意欲を示す内容を書く〔8〕(3)〕	77.8%	74.0%	差	全国平均を3.8ポイント上回っている。
		△	部屋に見立てた容器に植物を入れ、湿度の変化を科学的に探究する場面において、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を書く〔9〕(2)〕	21.0%	19.4%	正	正答率が低い。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の本県の結果

(1) 児童生徒質問紙調査(学習に関する項目)から見える山梨の子供たち

- ・学習に関する項目の95%以上において、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回っている。
- ・「今まで受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだりしている」「話し合いを通じて考えを深めたり広げたりすることができる」と回答している割合が全国平均を上回り、小学校段階から学習に対して主体的に取り組む姿勢が身に付いている。
- ・「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」「学校のきまりを守る」など自己肯定感や規範意識が高い児童生徒が多く、学校や家庭で培われた前向きで落ち着いた生活習慣が、学習に臨む姿勢の育成につながっているものと思われる。
- ・「算数(数学)や理科の勉強は大切だと思う」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答している割合が全国平均を上回り、学習に対する前向きな姿勢がわかる。
- ・「調査問題の解答時間が十分だったと思う」と回答している割合が全国平均を下回り、時間内に問題を解くことに課題が見られる。

(2) 児童生徒質問紙

<全体の概要>

- ・生活習慣や学習環境に関する項目の90%以上において、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回っている。
- ・全国平均と比較して、自己肯定感が高く、夢や目標を持って生活している児童生徒の割合が高い。
- ・児童生徒の規範意識に関しては、肯定的な回答をした児童生徒の割合が経年的に高い状況が続いている。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持つとともに、将来社会の役に立ちたいと考えている児童生徒が多い。
- ・自ら考えて課題解決に取り組んだり、仲間との対話を通して自らの考えを深めたり広げたりする児童生徒が多い。
- ・学校の授業時間以外に、普段勉強することについては、全国平均を下回っているが、年度を追うごとに県の割合は上昇している。

<数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す>

※全国平均を上回る主な内容

<上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差>

質問項目	小学校	中学校
①自分には、よいところがあると思いますか	86.1% +2.1	83.9% +5.1
②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	90.3% +5.0	88.7% +6.5
③学校のきまり（規則）を守っていますか	91.9% +2.4	96.7% +1.6
④いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.6% +0.8	97.1% +1.6
⑤人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.3% +1.1	96.6% +1.7
⑥テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか (携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)	87.3% +1.1	89.5% +2.9
⑦5年生まで(1・2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	82.7% +6.0	80.2% +6.4
⑧学級の友達との(生徒の)間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	81.6% +3.9	80.7% +4.4

<数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す>

※全国平均を下回る主な内容

<上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差>

質問項目	小学校	中学校
①学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)【1時間以上】	64.7% -1.5	68.3% -2.3

(3) 学校質問紙

<全体の概要>

- ・授業中は私語が少なく，将来の職業や夢について考えたり，学級全員で取り組む課題やテーマが与えられたりするなど，児童生徒が主体的に取り組むことができる指導方法の改善や工夫が見られる。
- ・学校の教育目標を踏まえ，教科横断的な視点で指導計画を作成し，カリキュラム・マネジメントの実現に向けて取り組んでいる。
- ・家庭学習に関する項目については，児童生徒とともに保護者に対しても働きかけを行い，学校全体で熱心に取り組んでいる状況が見られる。
- ・校長のリーダーシップのもと，実践的な研修の実施に取り組んだり，教科教育に関する研究会等に参加したりして，自身の資質向上と学校教育の充実に取り組んでいる。
- ・小中連携については全体的に改善されているが，依然全国平均を下回り課題である。
- ・習熟度に合わせた指導を行っている割合が全国平均を下回っている。

<数値は肯定的な回答をした学校の割合を表す>

※全国平均を上回る主な内容

<上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差>

質問項目	小学校	中学校
①調査対象学年の児童（生徒）は，授業中私語が少なく，落ち着いていると思いますか	95.3% +5.9	96.4% +1.8
②指導計画の作成に当たっては，各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	99.4% +4.7	95.3% +5.1
③調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	96.5% 0.0	100% +5.0
④調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，家庭学習の取組として，児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（国語／算数（数学）共通）	99.4% +6.1	96.5% +6.3
⑤校長のリーダーシップのもと，研修リーダー等を校内に設け，校内研修の実施計画を整備するなど，組織的，継続的な研修を行っていますか	100% +0.7	100% +1.9
⑥個々の教員が，自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており，校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	97.6% +10.4	95.2% +12.3
⑦教職員は，校内外の研修や研究会に参加し，その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	100% +3.1	100% +6.1
⑧学校として業務改善に取り組んでいますか	100% +2.6	98.8% +2.0

<数値は肯定的な回答をした学校の割合を表す>

※全国平均を下回る主な内容

<上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差>

質問項目	小学校	中学校
①前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	54.1% -9.0	61.9% -7.3
②前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	67.1% -2.4	73.8% -2.7
③調査対象学年の児童（生徒）に対して、算数（数学）の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	14.7% -20.5	14.3% -14.3
④調査対象学年の児童（生徒）に対して、算数（数学）の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	7.7% -18.0	10.7% -12.2